

関東地域のカワウの平均巣立ちヒナ数

加藤ななえ (NPO 法人バードリサーチ)

関東地域にある 2 つのコロニー（埼玉県比企郡の国営武蔵丘陵森林公園と千葉県市川市の行徳鳥獣保護区）で、カワウの平均巣立ちヒナ数を調べた。

国営武蔵丘陵森林公園は、海から約 65 km の内陸部にある。公園内のため池のひとつ山田大沼の岸辺の樹林が営巣場所として利用されている。2 ヶ月ほどの休止期間を除くほぼ一年中、繁殖活動が観察され、営巣数のピークは春と秋にある。2002 年から 2007 年 7 月まで 1 ヶ月に 1 回、双眼鏡や望遠鏡を使って全巣（209～403 巣）の繁殖段階を観察した。造巣、抱卵、抱雛、及び成長していくヒナを 4 段階に分けて記録した。その中で、親の大きさとほぼ同じになった段階のヒナを、巣立ちが可能であると判断し、ヒナを巣立たせることができた巣とその巣立ちヒナ数を調べた。

行徳鳥獣保護区は東京湾北部の埋立地にある。行徳鳥獣保護区のカワウの繁殖期間はおよそ 1 月から 6 月である。森林公園の営巣はすべて樹上で行われているが、行徳では、2002 年秋より人工の営巣台が設置されているため、カワウは樹上だけではなく営巣台も利用している。2001 年に予備調査を行い、2002 年から 2004 年にかけて 1 月末より 6 月まで 7 日から 10 日おきに、営巣場所の違いに考慮しながら観察し易さで抽出した特定の巣（84～124 巣）の繁殖段階の経過を、約 200m 離れた対岸から望遠鏡を使って観察した。森林公園と同様に繁殖段階を記録し、親とほぼ同じ大きさになった段階のヒナを巣立ちできるヒナとして、それぞれの繁殖成功巣ごとの巣立ちヒナ数を、樹上と営巣台にわけて調べた。

森林公園では、2002 年の秋から 2007 年の春までの各繁殖期に、ヒナの巣立ちを成功させた巣は 69 巣から 256 巣で、巣立ちヒナ数は 116 羽から 470 羽を数え、繁殖期ごとの巣立ちヒナ数の平均は 1.61 羽から 1.84 羽であった。春よりも秋の繁殖期のほうが、営巣数も巣立ちヒナ数も多くなる傾向があった。

行徳鳥獣保護区では、2002 年、2003 年、2004 年で、それぞれヒナの巣立ちを成功させた巣は 27 巣、49 巣、35 巣で、巣立ちヒナ数は 38 羽、68 羽、50 羽であった。2002 年はすべて樹上営巣で、巣立ちヒナ数の平均は 1.41 羽であった。2003 年は樹上営巣では 1.54 羽、人工営巣台では 1.20 羽となり、2004 年は樹上で 1.38 羽、営巣台で 1.47 羽であった。また、繁殖期の前期よりも後期のほうが、巣立ちヒナ数が多くなる傾向があった。

この調査の一部には、国営武蔵丘陵森林公園管理所の委託調査として行ったデータを含んでいる。